

平成23年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品

◆最優秀賞(3作品)◆

【小学生の部】「ふしぎだね この道歩くと ほっとする」

田村 茉莉花 さん 8歳(香川県 高松市立川島小学校)

選評：ほんとうによいものは、そのどこがよいかわからないことが多い。
それが「ほっ」とさせるのだろう。

【中学生の部】「この道で 今日ドラマが 生まれてる」

江島 千愛 さん 13歳(新潟県 長岡市立宮内中学校)

選評：道は人と人を結びつけるものだから、日々ドラマが生まれる。
よいドラマが生まれることを願わずにはいられない今日このごろだ。

【一般の部】「よい事が ありそう今朝の 光る道」

徳江 和雄 さん 82歳(東京都 北区)

選評：道を歩いていてふっと吉兆を感じたその瞬間をとらえた作品。
「光る」が効いている。

◆優秀賞(6作品)◆

【小学生の部】「おはようが ひびいてきこえる 山のみち」

矢野 珠真 さん 7歳(大分県 豊後高田市立臼野小学校)

「道路でね 転んで泣いて 仲直り」

小川 藍 さん 12歳(新潟県 長岡市立山古志小学校)

【中学生の部】「こんにちは 道路で交わす 合い言葉」

七條 怜華 さん 14歳(長崎県 雲仙市立小浜中学校)

「夕日道 のびる影で 背くらべ」

渡邊 悠子 さん 15歳(香川県 高松市立高松第一中学校)

【一般の部】「続くだね この道が 未来へ」

山本 篤 さん 51歳(新潟県 長岡市)

「風の色 見つけて歩く 四季の道」

保岡 直樹 さん 40歳(東京都 世田谷区)

(総合選評)

- ・改めて「道路」は、日々時間を共にしている大事な存在ということが分かります。小学生のやわらかな視点、中学生の未来への予感、一般部門の暖かさ。全てに人の縁が感じられておそらく街町でこの標語を見た方は、まさに「ほっ」とするのではないのでしょうか。
- ・その地に暮らす人々の息吹が伝わる作品が揃いました。小学生の「ほっとする」の言葉からは、家族と地域に守られて生きる姿、中学生になると、「ドラマが生まれる」と大人への入口に立つ期待感が、そして、一般の部では「よい事が」と希望を招く言葉へと展開しています。それぞれの人生の段階ごとに、人が道路を豊かに育てているようです。